令和４年６月１日現在の世帯数と人口

（千種区　18.18K㎡）

学区名	世帯数	人口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1　千　種	5,566	8,851	4,510	4,341	54	53
2　千　石	3,974	6,692	3,426	3,266	42	48
3　内　山	5,596	7,919	4,217	3,702	42	57
4　大　和	3,448	6,646	3,253	3,393	28	19
5　上　野	7,419	15,481	7,582	7,899	19	21
6　高　見	7,295	13,246	6,322	6,924	10	△ 8
7　春　岡	6,877	10,989	5,774	5,215	36	28
8　田　代	11,260	21,853	10,422	11,431	58	81
9　東　山	10,267	19,197	9,376	9,821	12	17
10　見　付	4,538	8,396	4,225	4,171	29	30
11　星ケ丘	3,533	6,837	3,037	3,800	9	13
12　自由ケ丘	3,560	7,275	3,287	3,988	△ 4	△ 9
13　富士見台	6,511	15,275	6,956	8,319	10	8
14　宮　根	3,794	8,110	3,736	4,374	8	25
15　千代田橋	3,715	8,309	3,918	4,391	6	△ 5
千　種　区　計	87,353	165,076	80,041	85,035	359	378
R3.6.1	86,968	165,095	80,091	85,004	127	111
対　前　年　比	385	△ 19	△ 50	31	232	267
名　古　屋　市	1,140,651	2,326,239	1,142,258	1,183,981	3,616	3,298
愛　知　県（R4.5.1）	3,278,648	7,497,028	3,734,225	3,762,803	12,055	7,988

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出　生	死　亡	自然増減	転　入	転　出	社会増減
	92	142	△ 50	1,297	869	428

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口（千種区）	
昭和６０年	163,762	平成１７年	153,118	最大人口	173,598（昭和50年2月1日）
平成　２年	156,478	平成２２年	160,015		
平成　７年	148,847	平成２７年	164,696	最小人口	146,727（平成11年4月1日）
平成１２年	148,537	令和　２年	165,245		

注）　学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

統計なごやweb版　　http://www.city.nagoya.jp/shisei/category/67-5-0-0-0-0-0-0-0.html

千種区の年齢３区分別人口の概況

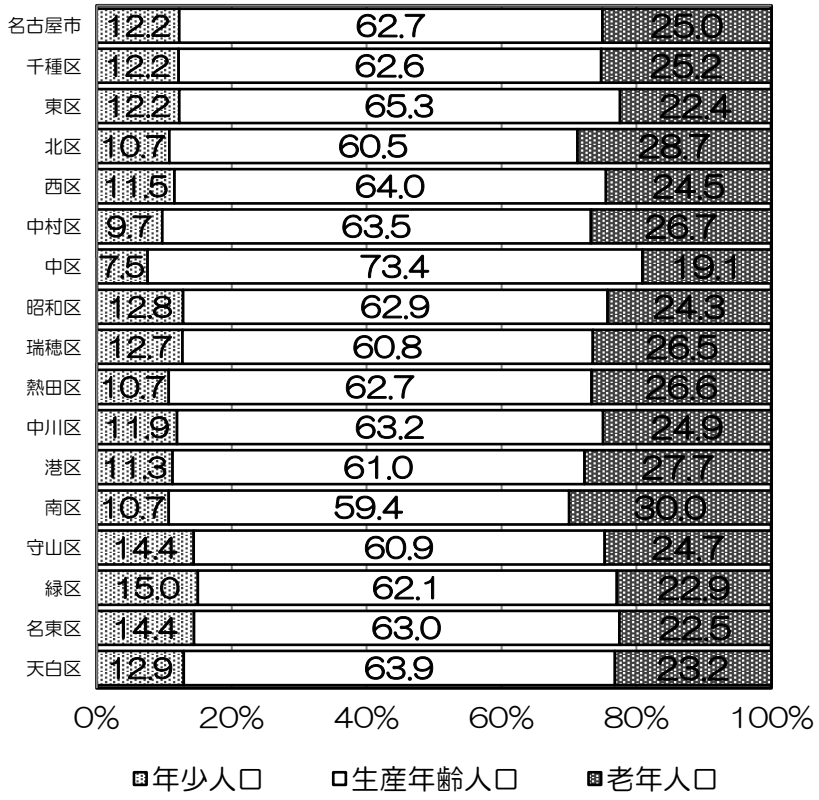

図１：区別年齢３区分別人口比率（令和３年 10 月１日現在）

今回はまず、千種区の年少人口（15 歳未満）、生産年齢人口（15～64 歳）および老年人口（65 歳以上）の比率について見てみます（図 1）。

名古屋市全体および各区の令和３年 10 月１日現在の年齢３区分別人口比率をみると、年少人口比率は緑区が 15.0％と最も高く、千種区は 12.2％で 16 区中８位です。

生産年齢人口比率は中区が 73.4％と最も高く、千種区は 62.6％で 16 区中 10 位です。

老年人口比率は南区が３０.０％と最も高く、千種区は 25.2％で 16 区中７位です。

千種区の３区分別人口比率は名古屋市の比率とほぼ同じとなっています。

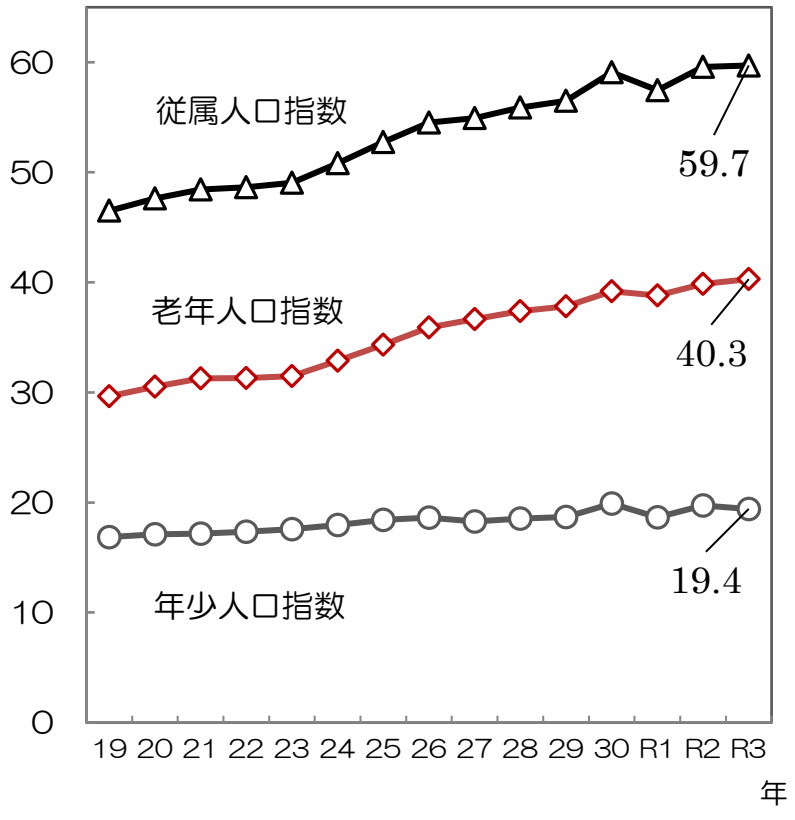

図 2: 千種区の年齢構成指数の推移　（各年 10 月１日）

次に、千種区の年齢構成指数の推移を見てみます（図 2）。年少人口指数および老年人口指数は、生産年齢人口１００人が年少者または高齢者を何人支えるかを示すものです。また従属人口指数は、年少人口指数と老年人口指数を合計したものです。

千種区の令和３年の年少人口指数は 19.4、老年人口指数は４０.３で、16 区中の高い方からそれぞれ７位と８位となっています。また、千種区の令和３年の従属人口指数は名古屋市全体（59.4）及び令和２年の千種区従属人口指数（59.6）を上回り 59.7 です。これは 16 区中高い方から７位（令和２年：７位）となっています。